

平成 27 年度号 No.16

CONTENTS

平成27年度 全学FD研修会開催報告	2	平成 27 年度 公開授業実施報告	10
平成27年度 全学FD講演会開催報告	2	全学 FD 研修「受講証明書」の発行	10
平成27年度 部・科・校FD活動報告		全学 FD 研修会「修了証」の交付	10
① 薬学部・薬学研究科	4	編集後記	11
② 歯学部・歯学研究科	5		
③ 看護福祉学部・看護福祉学研究科	6		
④ 心理科学部・心理科学研究科	7		
⑤ リハビリテーション科学部・ リハビリテーション科学研究科	8		
⑥ 大学教育開発センター	9		
⑦ 歯科衛生士専門学校	9		



全学 FD 研修会（基本編）でのワークショップ場面（関連記事 2 ページ）

平成27年度 全学FD研修会 開催報告

学生を中心とした教育を進めるために

平成27年度全学FD研修会は例年どおり計2回行われ、昨年度から引き続き「学生を中心とした教育を進めるために」をメインテーマとして話題を提供し、参加者がグループに分かれてディスカッションをした後、その内容をプロダクトとしてまとめ、発表と意見交換などを行いました。

平成27年4月5日（日） 10:00～17:00

学生を中心とした教育を進めるために -多職種連携教育について考える-

研修対象：平成27年度に新規採用された教職員 開催場所：札幌サテライトキャンパス

内容：第1回全学FD研修会では、まず、本学の教育理念と目標について新川学長による講話が行われました。この講話の中で、医療系総合大学として新医療人育成の北の拠点となることを目指し、本学の中長期的な行動計画も示されました。研修では、まず本学の多職種連携教育に関するミニレクチャーの後、ワークショップでは、本学の使命を踏まえ、多職種連携教育をすすめていくうえで、学生の能動的学習を促すために求められる具体的な行動目標などの授業設計について話し合いました。

平成27年8月6日（木） 9:00～17:00

学生を中心とした教育を進めるために -ゼロから考えるグランドデザイン達成のための教育プログラム-

研修対象：教職員 開催場所：当別キャンパス

内容：第2回全学FD研修会では、まず、レクチャーで、札幌市厚別区第2地域包括支援センターセンター長 石崎 剛 氏から、国の地域包括ケアシステムにより設置されている「地域包括支援センター」の現状や専門職教育に求められることなどについて理解を深めました。ワークショップでは、レクチャーをふまえて、本学が今年度設置する「地域包括ケアセンター」を活用した教育プログラムの構築として、医療人育成の観点から多職種の有機的な連携を生み出すための授業の取り組みについて議論し、その具体的方策を探りました。

平成27年度 全学FD講演会開催報告

平成27年6月15日（月） 17:30～19:00

研究ノートの書き方を学ぶ<リハビリテーション科学部FD委員会との共催>

講師：安彦 善裕 教授、松岡 紘史 講師、磯部 太一 講師 開催場所：当別キャンパス

内容：研究ノートの書き方と具体的な記載のポイントについて、研究ノートに関して工夫している点や疑問点などについて、グループディスカッションを交えながら講演がありました。

平成 27 年 6 月 17 日（水）・6 月 25 日（木） 17：30～18：30

研究活動の不正行為防止と研究者倫理について

講師：新川 詔夫 学長 開催場所：当別キャンパス、札幌あいの里キャンパス

内容：過去の研究活動における不正行為の実例を交えながら、科学研究における不正行為とはどのようなものかについての講話がありました。また、不正行為の防止策や不正が発生した場合の対応策等、さらに不正行為の防止策についての本学の取組みについても説明がありました。

平成 27 年 8 月 11 日（火） 17：15～18：30

実験ノートは理想的にはどのように書くべきなのか？ <歯学研究科 FD 委員会との共催>

講師：安彦 善裕 教授、松岡 紘史 講師、磯部 太一 講師 開催場所：当別キャンパス

内容：実験ノートに要求されること、学内の現状や研究分野による共通点と相違点、理想的な取り扱いなどについて、実際に使用されたノートを参照しながら、グループディスカッションなどを交えて説明がありました。

平成 27 年 8 月 25 日（火） 16：00～17：30

地域包括ケアと医療教育に期待するもの <薬学部 FD 委員会との共催>

講師：厚生労働省医薬食品局総務課 蓮見 由佳 氏 開催場所：当別キャンパス

内容：我が国の高齢化の進展の状況と医療・介護・予防・居宅・生活支援等は一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築および多職種間連携や薬剤師等を取り巻く現況と求められる役割、医療職教育への期待などについて講演がありました。

平成 27 年 10 月 27 日（火） 16：00～17：30

人を対象とする医学系研究に関わる倫理指針 <薬学研究科 FD 委員会・歯学部倫理委員会との共催>

講師：文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室 菊池 博子 氏

開催場所：当別キャンパス

内容：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について、指針の構成と目的や基本方針、用語の定義、適用範囲そのほかの取扱いなど各項目の概要について解説がありました。また、具体的な事例等に関する質疑応答がありました。

平成28年1月28日(木) 18:30~20:00

パフォーマンス評価の実際 <看護福祉学部 FD 委員会との共催>

講師：立命館大学 教授 沖 裕貴 氏 開催場所：ACU中研修室

内容：大学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの明示化とPDCAサイクルによる点検・見直し等の必要性などに関する解説に続き、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価について、事例を交えて注意点と有効性に関する説明がありました。

平成27年度 部・科・校FD活動報告

① 薬学部・薬学研究科

平成27年度薬学部FD委員会の活動方針として、少なくともそれぞれ1回のFDセミナーとセミナー&ワークショップ、そして隔月の薬学教育・研究談話会を開催することを第1回のFD委員会において確認した。

平成27年8月25日には厚生労働省の蓮見由佳氏を講師としてお迎えし、「地域包括ケアと医療教育に期待するもの」と題した平成27年度薬学部FD講演会を全学FD委員会との共催で開催した。さらに10月2日には薬学部FDセミナーとして、名城大学薬学部医療情報センターの天津史子教授を講師としてお招きし、「統合型薬物治療学の実践-学習方略としてのPBLと学習評価」と題してご講演頂いた。名城大学薬学部では早くよりアクティブ・ラーニングを取り入れた医療薬学教育を実践しており、ルーブリック評価を用いた学習成果評価の実際を伺うことができた。

平成28年2月12日には、「学生の視点を活かした薬学教育改善パート2」として、「学生の主体的学びを目指して」をサブテーマとした薬学部FDセミナー&ワークショップを開催する予定である。これは昨年度行ったサブテーマ「学生が望む良い授業とは」の続編であり、授業方法や内容、授業を受ける環境などの普段受けている授業に関する様々な問題点、要望などについての昨年のプロダクトを土台とし、次の段階として学生の主体的学習を目指す具体的取り組みを教員、学生が共に考えて行く学生参画型FD活動として行うものである。

薬学研究科FD委員会独自のFD活動としては、平成27年10月27日に文部科学省の菊池博子氏をお迎えし、「人を対象とする医学系研究に関わる倫理指針」と題した平成27年度薬学研究科FDセミナーを開催した。同倫理指針は平成27年4月1日より新たに施行されており、従来からの変更点や遵守すべき重要点についての説明を受け、さらに具体的な内容についての活発な質疑応答がなされた。

この他、薬学部と薬学研究科の両FD委員会の共催により、第13回から第17回まで計5回の薬学教育・研究談話会を開催した。この談話会は、FD活動の一環として平成24年度11月から隔月開催してい

るものであり、薬学部の将来を担う若手教員の研究成果や教育に対する取組み等を紹介し、教育・研究活動のさらなる活性化を図ることを目的としている。5回の談話会の述べ参加人数は、演者10名、教員・職員212名、学生・研究生44名であった。

また平成25年度から、長年教育、研究に携わって来られた先生方の最終講義を伺うこともFD活動にとって有益であるとの趣旨から、退職される先生方の最終講義を薬学教育・研究談話会の特別開催として教務委員会と共催している。今年度は2月29日（金）に2名の教授の最終講義が予定されている。

② 歯学部・歯学研究科

今年度の歯学部FD活動は、学部FD活動として①歯学部臨床実習（学外研修-全2回）、②現場からの医療改革、③診療参加型臨床実習への本学の取組み、④摂食嚥下リハビリテーションに関する臨床及び産学連携への期待と題された研修会が行われた。これらの研修会では臨床教育のさらなる充実と、今後より一層加速する超高齢社会における歯学部の役割と産学連携に向けた取組み並びに超高齢社会に適切に対応できる学生を輩出するための教育のあり方を中心に議論された。具体的な方策としては、1) 学生が自ら処置するケースの増加、2) これらの教育体制を管理する臨床教育管理運営分野の設立と3) 有病高齢者に対する安全性の高い歯科治療技術の習得を目的とした仮想患者を用いた教育システムに関わる設備の充実が効率的に進められているとの報告が行われた。

研究科FD活動としては①実験ノートは理想的にはどのように書くべきなのか？（全学FD研修会共催）と②科研費申請書の書き方と科研費の今後の方向性と題された研修会が行われ、昨今取り沙汰されている研究あるいは研究者のあり方における研究倫理の重要性が示されるとともに、研究者としての技能訓練を受講する体制を堅持していくことの必要性を再認識することができた。また、本学歯学部が拠点形成できる研究・歯学部の特色を生かした研究と題された私学研究科FDワークショップが初の試みとして行われた。本ワークショップでは歯学部における私立大学戦略的基盤形成支援事業の獲得に向けたテーマ選定やそれらの具体的な方策について基礎及び臨床分野の垣根を越えた議論が活発に行われ、今後の歯学部あるいは大学全体での大型外部資金の獲得に向けた新たな指針となり得る大変貴重な意見交換を行うことができた。

これらの研修会を通して、今後の歯学部の課題は超高齢社会を見据えた新たなシステムを多数包含した臨床実習の実践とそれらのフィードバックを充実させていくとともに、歯学部全体が一丸となって、教育並びに研究活動に取り組むことができる体制を実現していくことであり、次年度以降はこれらを目指したFD活動を進めていく必要がある。

③ 看護福祉学部・看護福祉学研究科

今年度、看護福祉学部・大学院看護福祉学研究科では、全学FD委員会との共催を含め3回のFDセミナーを開催しました(表)。いずれも、テーマに関連する領域の第一人者・気鋭の若手の実践者による講演・研修であり、参加者にとっては、現在進めている教育研究活動の推進にあたり有意義なセミナーとなりました。

2015年9月4日（金）には「看護福祉学における研究ノートの書き方・使い方」をテーマとして本学歯学部講師の磯部太一先生をお招きして開催しました。研究科のFD活動として、今年度から大学

院学生に研究ノートが配布されたことに伴い、この研修会では、1)「研究ノートの目的と意義」について講義いただいた上で、2) 参加した教員間で研究ノートの書き方と使い方をどのように教授するか、グループに分かれて討論を行い、討議内容を共有しました。実験研究を行う大学院生が少ないこともあり、参加した教員から研究ノートの活用について疑問が出され、これらの疑問に対して、磯部先生からの確かな回答をいただき、有意義な研修会となりました。



(大学院 FD 研修会の磯部先生の講義と参加者によるグループワーク)

2015年12月3日(木)には「アウトリーチ/ソーシャルアクションの力を有するソーシャルワーカー養成のためになすべきこと」をテーマとして NPO 法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典氏を講師としてお招きして開催しました。氏は首都圏で生活困窮者支援を幅広く推進する中で、『下流老人一億総老後崩壊の衝撃』(朝日新書)を著しました。「下流老人」は格差を象徴する時の言葉となっています。地域包括ケアが重視される中で、これまで以上に求められるアウトリーチやソーシャルアクションの実践能力をどのように培っていけるか、ご自身の生活困窮者に対する支援の実際や、厚生労働省社会保障審議会特別部会委員としての活動、ひろく社会に向けて福祉課題を発信していくことなど、地域に根差し、社会を変えていこうとする活動実践を情熱的に講義をして下さいました。講義の後は第二部として、教員との意見交換が行われ、リベラルアーツ教育の充実が必要であることなどが確認されました。参加者も200名を超え、時間が過ぎるのがあっという間に感じるほど、有意義なセミナーとなりました。



(臨床福祉学科 FD 研修会の藤田先生の講義と参加者による質疑)

2016年1月28日(木)には、立命館大学教育・学修支援センター長の沖裕貴教授を講師としてお招きし、「パフォーマンス評価導入の実際」と題した講演を開催しました。ディプロマ・ポリシー

や観点別到達目標を作成する上での留意点、パフォーマンス評価について、具体例を交えて大変わかりやすく講義をしていただき、参加した教員にとって、日頃の教育活動を振り返ると共に学生の学修評価の方法について考える貴重な機会となりました。



(「パフォーマンス評価の実際」を講義していただいた沖先生と参加者)

2015年9月4日(金) 17:10-18:30 看護福祉学部4FN43	看護福祉学研究科FDセミナー 看護福祉学における研究ノートの書き方・ 使い方	北海道医療大学歯学部講師 磯部太一 講師
2015年12月3日(木) 09:00-11:00 看護福祉学部4FN41	看護福祉学部(臨床福祉学科)FDセミナー アウトリーチ/ソーシャルアクションの力を 有するソーシャルワーカー養成のために なすべきこと	NPO法人ほっとプラス代表理事 藤田孝典 講師
2016年1月28日(木) 18:30-20:00 サテライト中研修室1205	看護福祉学部(看護学科)・全学共催 FDセミナー パフォーマンス評価導入の実際	立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授 沖 裕貴 講師

④ 心理科学部・心理科学研究科

平成27年度の心理科学部・心理科学研究科のFD活動は、全学FD委員会との共催を含めて計3回のFD研修会を開催しました。まず、7月には、心理科学部臨床心理学科(大学教育開発センター兼務)の安部博史准教授に講師をお願いし、臨床心理・言語聴覚セミナーを行いました。このセミナーは心理科学部設立初期から続くセミナーであり、この回で62回目となる本学部でもっとも長い歴史を持つセミナーです。このセミナーは、心理科学部所属教員の研究や教育に対する取組み等を紹介して学部内教員間の交流を深め、研究と教育活動の活性化を図ることを目的としています。セミナーの内容は、安部准教授がこれまで行ってきた研究紹介で、記憶に関する基礎研究と精神疾患に対する薬理学的研究成果についてお話しいただいた。

さらに9月は、心理科学部臨床心理学科(大学教育開発センター兼務)の西牧可織助教を講師とし、第63回臨床心理・言語聴覚セミナーを開催した。セミナーの前半は、先生の研究テーマであるレーザー光を用いた通信技術開発について、後半はICT活用によるアクティブラーニングの学習効果

の新たな評価手法についてお話しいただいた。ここでは、実際に本学で行われたアクティブラーニング型講義の学習効果の評価結果も示され、今後の講義の組み立てに大いに参考となりました。

3月には、札幌医科大学医学部知的財産管理学の石埜正穂教授を講師としてお招きし、調査研究の実験ノートの書き方について、研修会を開催する予定です。近年、研究不正や知的財産に関する事件やもめ事について、マスコミを通してよく耳にします。実験ノートは研究者が実際に行った実験の記録であり、またアイデアのプライオリティーを示すもので、研究不正や知的財産についての問題が生じた場合、実験ノートは唯一の物的証拠となります。そのため、実験ノートには、網羅性、保全性、実証性といった特性を満たしている必要があると考えられます。そこで、石埜教授には、これら特性を満たした実験ノートを作成するには、具体的にどのようにすればよいのかをお話しいただく予定です。また臨床分野における調査研究では、主に人からデータを集めるため個人情報を含んでおり、データの保管・管理は厳しい条件下で行われなければなりません。この研修会では、データの取扱いについてもお話しいただく予定です。

これ以外にも、臨床心理学科では、臨床教育に関わる教員が集まり臨床指導に関する協議が定期的に行われています。

⑤ リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科

リハビリテーション科学部では、3回のFD研修会を開催いたしました。

第1回目は、平成27年4月2日（木）に、リハビリテーション科学部・本家寿洋教授、吉田晋教授、澤村大輔講師の3名により、「多職種連携のコンピテンシーを学ぶ」と題し研修会を行いました。本家教授からは「多職種連携コンピテンシーの開発プロセスとその概要」という題で、その定義と開発の背景について解説がありました。吉田教授からは「多職種連携コンピテンシーを基礎教育・生涯教育のデザインに活かす」という題で、本年度に学部3年生を対象として行われる多職種連携論の具体的な講義内容について述べられました。澤村講師からは「千葉大学看護学研究科附属専門職連携教育研究センター開設シンポジウム報告」として、千葉大学で行われている多職種連携の教育プログラムに関して現状の報告がありました。研修会では、本学部のみならず、他学部からの参加もあり、今後も多職種連携に関する情報・意見交換と議論を重ねていくことが、様々な医療系学部が存在する本学の環境を活かした多職種連携教育の充実に必要であると感じた研修会でした。

第2回目は平成27年8月21日（金）に、新潟医療福祉大学より遠藤和男先生をお招きし、「専門職連携教育（IPE）におけるファシリテートの方法を学ぶ」と題して研修会を行いました。前半は遠藤先生より「モジュールを中心としたIPEについて」の講義がなされ、後半はアイスブレイキングからモジュールを利用したIPE演習とそれに対するリフレクションまでを実際に参加者が体験しました。参加者からは、「今回の内容は、本学の多職種連携論に活かすことができるのではないか」などの声が聞かれました。

第3回目は、平成28年2月5日（金）に、長崎大学より安武亨先生をお招きし、「私共のアクティブラーニング ～特にPBL、TBL、IPEについて～」というテーマでの研修会を開催しました。長崎大学で行われているPBLチュートリアルや長崎純心大学と共同履修で行っているIPE、さらには具体的なTBLを参加者が実際に体験し、理解を深めることができました。長崎大学でのIPE学習の現状についての内容は、医療系総合大学として多職種連携教育の充実に目標としている本学にとっては、非

常に参考になる内容でした。

リハビリテーション研究科では、2回の研修会を開催しました。

第1回目は、平成27年6月15日（月）に、本学歯学部の安彦善裕教授、松岡紘史講師と、歯学部・大学教育開発センターの磯部太一講師、の3名により、「研究ノートの書き方を学ぶ」と題して、全学FD委員会共催での研修会を開催しました。研修会では、研究ノートの書き方やポイントについて整理することができ、研究ノートを書く重要性について再認識する事ができたと感じました。

第2回目は、平成27年9月25日（金）に、アメリカで理学療法士として活動されている一色史章先生をお招きして、「アメリカの医療の現状 日本のコメディカルの未来への提言」という題で講演をしていただきました。日本よりも進んだアメリカでのリハビリテーション職種の活動について知ることができ、今後のリハビリテーション教育のあり方を変える必要性を感じさせる内容の研修会でした。

⑥ 大学教育開発センター

大学教育開発センターでは、平成27年度FD活動として昨年度に引き続き、全学教育の内容や方法等に関する情報交換、意見交換を目的とする「全学教育懇談会」を、平成28年3月17日（木）9時30分から当別キャンパスの第3会議室で開催する予定です。

懇談会では、全学教育科目（題目）を実施する際の留意点や対策および工夫や改善点などに関して、各教員の取り組み等についての話題提供を受け、全学教育を向上・発展させるための協議および情報交換、意見交換などを行います。

今回は、安部准教授から「科学的な根拠に基づく『多職種連携教育』」、鎌田准教授から「初年度英語共通教材『基本語彙表現集100』」、長谷川准教授から「質問対応0の授業を目指して」、井上（恒）助教から『健康・運動科学』の現状と今後の展望」の演題により、それぞれ30分程度で話題提供と質疑応答を行います。

その後、ランチョンセミナーとして、鈴木（一）教授、二瓶教授、安部准教授、磯部講師からの研修会参加報告などにより、情報交換、意見交換を行い、議論を深めていく予定です。

⑦ 歯科衛生士専門学校

歯科衛生士専門学校では独自のFD活動はありません。そのため主な活動としては全学で実施されるFD研修への参加と北海道歯科衛生士養成機関が主催する年2回の研修に参加することで情報を得ているのが現状です。

北海道歯科衛生士養成機関主催の研修会では「歯科衛生過程の進め方」として京都歯科医療技術専門学校の有井真弓先生より学校で展開する歯科衛生過程とその課題についての研修がありました。歯科衛生過程は歯科衛生士教育年限が3年以上に改正された際に新たに組込まれた教育内容です。科学的な根拠を基に歯科衛生業務を展開するためのツールとして活用されています。これによって、他の歯科衛生士だけではなく、他職種との連携もスムーズになると考えられていますが手探りの状態で進行しているのが現状です。

また、「学生のやる気を引き出すアカデミックコーチング」として塚田康裕先生より基礎的なコー

チングのテクニックについて演習を含めての研修があり、多様化する学生たちへの対応を考える貴重な機会となりました。

平成 27 年度は授業アンケートに積極的に取り組んでおり、次年度に向けての課題を多く発見できると考えています。また学生に対しジェネリックスキルテストを実施していますので、その結果を今後の学生教育に活かせるよう考えていく必要があると考えています。

平成27年度 授業公開実施報告

教員の更なる授業改善と教育力向上を目的とし、教員が他教員の授業に参観する授業公開を、全学FD委員会が主導となり、平成24年度から行っています。平成27年度の実績は、以下のとおりです。

表. 平成27年度実施公開授業（平成28年2月10日現在）

	公開科目数	のべ講義コマ数	参観者実数
前期授業	27 科目	67 コマ	36 名
後期授業	17 科目	40 コマ	22 名

全学FD研修の「受講証明書」の発行をスタート

全学FD委員会が主催（共催）する研修事業について、研修受講者の求めに応じて「受講証明書（受講証）」を発行することになりました。

証明書（受講証）の発行を希望する場合は、本学ホームページの「学内専用」の「FD活動」ページから「FD研修受講証交付申請書」をダウンロードして、所定事項を記入のうえ教務企画課FD研修担当にファイル添付でメール送信（fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp）します。

平成28年度から 全学FD研修会（基本編・テーマ編）の受講者に「修了証」を交付

全学FD研修会は、毎年度、春（基本編）と夏（テーマ編）の2回実施しています。

研修は、本学を取り巻く教育上の諸課題をテーマとしたワークショップを中心に、朝から夕まで長時間にわたる充実した内容で、ワークショップのプロダクトにもその成果が表れています。

このほど本研修の受講者に「修了証」を交付することになり、平成28年度の研修から実施することになりました。

編集後記

皆様のご協力により、今年度も無事にFDニューズレター第16号を発刊できる運びとなりました。ご協力いただいた方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。今号では、北海道医療大学で行われました平成27年度FD活動を中心に、ご紹介させていただきました。本学、そして皆様方の益々の発展に、少しでもお役に立てればと願っております。

発行日 2016年3月

発行元 北海道医療大学全学FD委員会

編集委員 黒澤 隆夫(委員長)、石井 久淑、岡橋 智恵、笠原 晴生、○鎌田 樹寛、国永 史朗、志渡 晃一、
下村敦司、千葉 逸朗、富家 直明、平藤 雅彦、三国久美、森田 勲、○吉田 晋、和田 啓爾
(○発行担当)